

かくめい なんみん こ にん すく  
ロシア革命で難民となった子どもたち800人を救った

ようめいまる せんちょう  
「陽明丸」船長

かや ほら もと じ  
茅原基治

かさおかし こうのしゅっしん  
笠岡市甲弩出身

めいじ ねん しょうわ ねん  
明治18年(1885)～昭和17年(1942)

ごじゅうごさいとうじ  
五十五歳当時の茅原船長  
かやはらせんちょう



# 茅原基治について知ろう！

## 生い立ちと恩師との出会い ~貨物船の船長へ~

明治18年(1885)に茅原家の次男として、岡山県小田郡甲弩村(今の笠岡市甲弩)に生まれました。豊かな自然に恵まれたふるさとで育った基治は、北川小学校を経て、明治32年(1899)に現在の金光学園へ入学しました。

金光中学校の佐藤校長は、生徒の才能や性格を伸ばすことを大切にしています。基治は、努力を重ねて船長試験に合格し、神戸市にある勝田汽船の貨物船の船長になりました。



さとうのりおこうちよう  
佐藤範雄校長  
(金光図書館提供)

## なぜロシアの子どもたちを助けることに…？ その頃のロシアの国は?!

大正6年(1917)ロシア帝国では、ロシア革命がおり、国中が混乱し、各地で争いがおきました。大勢の子どもたちが、戦火の中を寒さと空腹で逃げまどいました。アメリカの赤十字社は、子どもたちを守るために、大正8年(1919)9月にウラジオストクで子どもたちを保護しましたが、混乱は治まりませんでした。

そこで、子どもたちを守るために船にのせて、一度ロシアを離れ、安全な場所に移動し、国の中が落ち着いたらロシアの家族のもとに返すという救出計画を立てました。

世界中の船会社に助けを求めましたが、あまりにもたいへんな計画で、協力力をしてくれるところは  
ありませんでした…



## 勝田社長の決断 『子どもたちを救え!』 基治, 「陽明丸」船長に任命される!



かつたぎんじろうしゃちよう  
勝田銀次郎社長  
(神戸市文書館提供)

この困難な救出計画の呼びかけに応えたのが、勝田汽船の勝田銀次郎社長でした。船長には勝田社長が最も信頼をよせていた当時35歳という若さの茅原基治が選ばれました。

勝田社長は貨物船「陽明丸」(1万1千トン)を急いで客船に改造し、煙突に赤十字、マストに星条旗(アメリカ合衆国の国旗)、船尾に日章旗(日本の国旗の日の丸)を付けて、神戸からロシアのウラジオストクへ向かわせました。



こうかいきろく  
[茅原船長が書いた航海記録]  
ひようし ふね え ようめいまる  
表紙の船の画は陽明丸  
(金光図書館所蔵)



# しゅつこう 出港！「子どもたちを救う旅 命がけの航海へ！」

## たいしょう ねん ▶ 大正9年（1920）7月13日 ロシアのウラジオストク出航

陽明丸はロシアの子ども779名をはじめ、ロシア人女性87名、兵士77名、アメリカ赤十字社員16名、アメリカYMCA派遣員1名の計960名を載せて出航しました。

## ほっかいどう むらに ゆうこう ▶ 7月15日 北海道室蘭入港

はじめは敵国であったロシアの子どもたちの上陸を断られましたが、茅原船長の説得により、上陸が許されました。市内の小学校では茶菓子や絵はがきが贈られて、日本の子どもたちと言葉は通じないながらも身ぶりや手真似で楽しく交流を深めました。

## ▶ 8月5日 サンフランシスコ出航

パナマ運河を通り抜けニューヨークに向かう航海の中で、子どもたちは日射病（熱中症）や船酔いに苦しみましたが、船員たちと力をあわせて困難を乗り越えました。

## ▶ 8月28日 ニューヨーク到着

子どもたちは、50日間を過ごした陽明丸を一時離れアメリカ軍兵舎に滞在しました。その間には、子どもたち17人が集団脱走したこと、16歳の少女が病死したことなど悲しい出来事がありました。茅原船長が、家族と離れて過ごす子どもたちのために、ニューヨークに住む多くの日本人に呼びかけて、たくさんの寄付金とお見舞いの品物やお菓子が届きました。陽明丸にもどった子どもたちは「うちに帰って安心した」と喜び、日本人からのお見舞いの品物にたいへん感動しました。

▶その後陽明丸は、大西洋を横断し、第一次世界大戦でしかけられた機雷が多数残るバルト海の危険な区域を、普通に航海する2倍以上の時間をかけて注意深く通過しました。

## ▶ 10月10日 フィンランドのコイビスト（現在のプリモルスク）到着

3か月に及ぶ航海は終了しました。下船した子どもたちは、ロシアの家族の元に無事に引き取られました！

陽明丸は真夏のインド洋をさけ、太平洋を横断してパナマ運河を通り抜ける航路を選択しました。暑さに慣れていない子どもたちの健康を心配したからです。



むらんこう じょうりく いっこう 室蘭港に上陸した一行

## こうかいちゆう 航海中のエピソード ～茅原船長の子どもたちへの思いやり～

### 【子どもの命を守る】

万が一に備えて救命胴衣の着用や救命ボートを水面におろす練習をしました。



くんれん [救命ボートの訓練]

### 【みんなで仲良く】

毎日英語や数学の勉強と土日には映画やダンス、綱引きなどを行いました。子どもたちと船員は言葉の壁を越えてとても仲良くなりました。



げんき [元気にジャンプする子ども]

### 【家にいるような安心感】

家族とはなれて過ごす子どもたちにとって陽明丸は家となり、苦楽を一緒に乗り越えた船員たちは、家族のような存在になりました。



きかんし [子どもからお菓子をもらう機関士]



ようめいまる きゅうしゅつ ほこく もと とぎ くに  
 陽明丸は子どもたちを救出し、母国に戻してくれるためにお伽の国から  
 きてくれた船でした…」 ロシア人モルキナさんが読んだ感謝の手紙

茅原船長の「命がけの航海」は、長く忘れられていましたが、救出された子ども（ロシア人）の孫にあたるオルガ・モルキナさんというロシア人女性が「カヤハラ船長」の子孫を探していました。そしてロシアで船長探しを頼まれた北室南苑さん（石川県能美市）が、日本に帰ってから「茅原船長」のふるさとが岡山県笠岡市甲弩にあることをつきとめました。

この出来事を知った名古屋市の南山高等・中学校男子部の生徒達が学校側と話し合い、モルキナさんを日本に招待するようになりました。



感謝の手紙を読むモルキナさん  
 (山陽新聞社提供)

来日したモルキナさんは平成23年（2011）10月27日、笠岡市甲弩にある茅原船長のお墓を訪れました。そして、茅原家の人々や地元のみなさん、北室さん、生徒達の見守る中、墓前で感謝の手紙を読み上げて、花束とロシアの国旗をお供えしました。

地元でも茅原船長の功績を伝える活動が始まりました。平成30年（2018）には、「茅原基治船長を顕彰する会」により茅原船長のお墓の横に2基の顕彰碑が建てられました。



2基の顕彰碑

陽明丸の航路図

